

尊光寺報

第120号

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

正信偈講座⑬

(赤い経本七巻)

本願名号正定業 至心信楽願為因 阿弥陀さまの願い(本願名号)

前回は「本願」についてお話をしました。阿弥陀如来が菩薩として修行されている時におこされた四十八の願い、その中でも第十八願を親鸞聖人は根本の願、本願であると思われました。もう一度、第十八願の内容を確認しますと、

「わたしが仏になるとき、すべての人々が心から信じて、私の国に生まれたいと願い、わずか十回でも念仏して、もし生まれることができないようなら、わたしは決してさとりを開きません。ただし、五逆の罪を犯したり、仏の教えを誇るものだけは除かれます。」

という願いです。「念仏に出会った者が私の国(極楽浄土)に生まれることがなかったならば、私も仏になることはない」と、私たちが浄土に生まれることと、仏さま自らの成仏と一緒に誓っておられるのです。それは、けつしてあなたを独り置いてはいかないよ、喜びの時も悲しみの時も、常にあなたに寄り添っていますよという仏の大きな慈悲のお心の表明に他なりません。

つづいて説かれるのは「名号」です。名号とは名前のこと、仏さまの名称のことです。阿弥陀仏であれば「南無阿弥陀仏」の六字名号や、「南無不可思議光如来」の九字名号、「壽命尽十方無礙光如来」の十字名号があります。「阿弥陀」とはインドの言葉がもとで、アミターバー(計り知れない光明)とアミターユス(計り知れない寿命)という二つの意味を持っていると以前に紹介しました(寺報109号)。九字名号の「不可思議」は「我々の思考範囲を遙かに超えた光」を、十字名号の「無礙」とは「さえぎられることのない光」を表したものです。

さて、ここで大切なことは、「南無」や「壽命」までを含んだ名号(名前)であるということです。寺報108号にも記しましたが、親鸞聖人はこのことについて、「南無という言葉は帰命ということである。…帰命とは、わたしを招き、喚び続けておられる如来の本願の仰せである」と解釈されています。煩惱に惑わされ、苦しみもがいているのにもかかわらず、この世が好きだと現世の欲望にしがみつき、仏さまの方を見向きもしない私たち。そんな我々に向かつて、私の名前(南無阿弥陀仏)を聞いておくれ、

称えておくれと喚んでくださっているというのです。また、南無阿弥陀仏とは、「私たちに往生の行を与えてくださるもの」であり「私たちを救うために選び取られた本願の行」であるとも解釈されています。つまり、南無阿弥陀仏とはただの名前ではない、呼び声ではない、そこにはあなたを浄土へと連れて行くはたらきが全てこもっているんだとおっしゃっているのです。

福岡に嫁いだ妹の子がヨチヨチ歩きを始めました。まだ分別がつかず、何が危険なのか、分からないけれども歩くことに夢中です。こうなると親は目を離せません。危ない方には行かないで、こつちへおいでと声をかけます。こつちだよ、お母さんだよ。その「こつちだよ、お母さんだよ」の呼び声の中には、子どもに安心を与え、親の方へ向かせ、親を呼び、親の方へ向かう力を与えます。それだけの力が呼び声の中には含まれているではありませんか。

名号「南無阿弥陀仏」は、煩惱という危険な海のご真ん中で、危険なことにすら気づかず泳いでいる私たちに、親の名乗りとなつて呼び続けている仏の姿そのものであり、私たちが安全な岸である浄土へと向かわせる力、救い上げる力がこもっているというのです。

まとめますと、「本願名号」とは、阿弥陀如来が第十八願(本願)に「わずか十回でも念仏」と誓われたように、名号の「南無阿弥陀仏」が私たちの所で念仏の「南無阿弥陀仏」となつてはたらいっているということであり、「正定業」とは、その名号は私たちが浄土へ生まれさせることが正しく定まる業(はたらき)であるということです。

報恩講法要・おしらく(う)報告



△12月23日、お陰様で報恩講が満堂で勤まりました。執行当番は土成西組、法話は広島県から藤井義英師でした。



△報恩講後の落語も盛況。落語家桂優々さんによる「牛ほめ」と「延陽伯」。堂内が笑いに包まれました。

法要・行事のご案内

◎ 春の彼岸会永代経法要

【3月21・22日】 両日とも午後1時から

※22日は仏教婦人会総会も兼ねます。

〈法話 本願寺派輔教 佐竹真城 師〉

○ 太陽の沈む西方に懐かしい方の往かれた浄土を思わせていただき、ともに念仏に抱かれている喜びを聞かせていただきます。どうぞお一人でも多くの方のお参りをお待ちしております。

○ 法話ご講師は、副住職の友人にして、本願寺派研究員や僧侶養成機関である仏教学院の講師を務めている佐竹師です。心温まる仏さまのお慈悲を取り次いでくださいます。

◎ 宗祖親鸞聖人降誕会法要

ならびに 午後 門信徒総会

【5月1日】 午前10時より法要(ついでに午後総会)

食事準備などお手伝いをしていただける方は9時頃より
○ 宗祖親鸞聖人のお誕生をお祝いする法要です。念仏に出会えたことを感謝致しましょう。〈法話 副住職〉

◎ 本山・大谷本廟参拝団(団参)の募集

■ 日帰り 【6月17日(日)】 経費1万5千円

■ 一泊 【6月17日(日)〜18日(月)】 3万5千円

大谷本廟での法要・納骨、本山西本願寺へ参拝の後、

【日帰り】將軍塚青龍殿を観光。

【一泊】有馬温泉宿泊、天橋立観光。

○ 年に一度の団体参拝です。どうぞふるってご参加ください。

○ 大谷本廟へ納骨、本山での法名拝受を希望の方申し出ください。

◎ 中四国地区仏教婦人会大会

【8月30日】 午前10時より アステイ徳島

参加費用 3千円(昼食代・お寺からアステイまでのバス代)

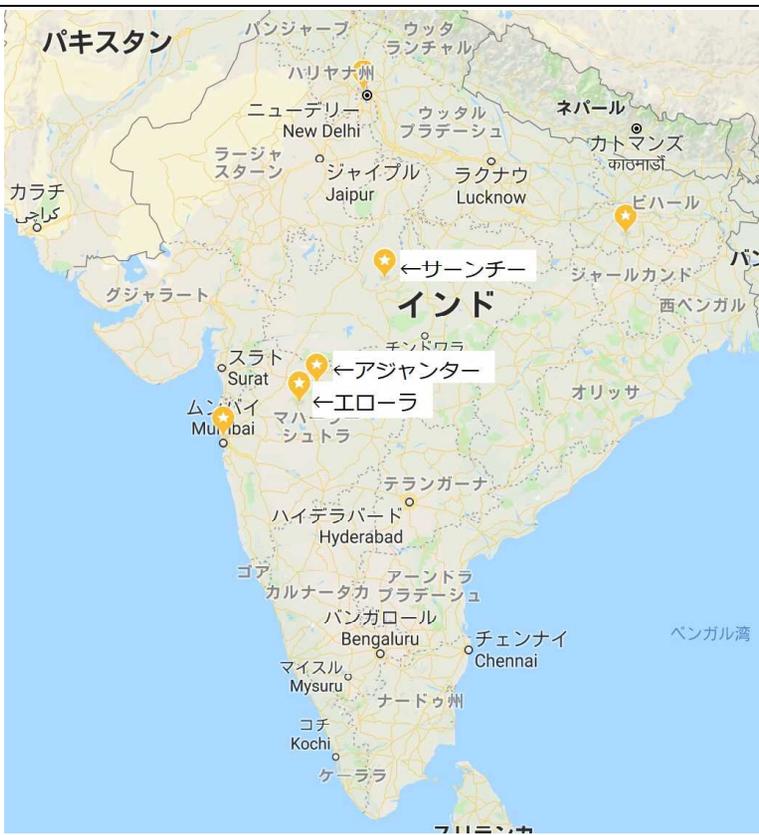
○ 法話と音楽楽団「迦陵頻伽」など

○ 本願寺ご門主ご臨席のもと、中国四国地方全体の本願寺派仏教婦人会大会が徳島で開催されます。どうぞご予定ください。申し込みはお寺まで。

インド 仏教美術の至宝を訪ねる旅①

副住職は、昨年末、大学院時代の先輩とインドを訪ねる機会に恵まれた。主な目的地はインド内陸部、サーンチー、エローラ、アジャンターの三カ所。インド国内ではあるが、仏教の開祖であるお釈迦さまの活躍した地とは離れた土地である。しかし、現在まで素晴らしい仏教彫刻や壁画などが残る。いずれも仏教の歴史上欠かすことのできない遺跡である。

ご存知の通り、現在のインドは人口12億人を超え、多宗教、多民族、多言語の国家である。外務省公表の基礎情報によると、その宗教構成はヒンドゥー教徒79.8%、イスラム教徒14.1%、キリスト教徒2.3%、シク教徒1.7%、仏教徒0.7%、ジャイナ教徒0.4%である。お釈迦さまの国ながら、仏教徒の割合の低さに素直にショックを受ける。しかし、12億超の人口に0.7%をかける800万を超える仏教徒がいるというのだから、考えようによっては、この数字は心強くも感じられるのである。



さて、インドへは関西空港からエアインディア便でデリー空港へ、途中香港経由して、約十二時間の長時間フライトである。機内食にて帰国するまで味わえないであろう日本食に別れを告げると、機内は早くもインド化してくる。乗客の顔つき、機内アナウンス、何と言つてもカレーを思わせるスパイス臭が漂い始め、「ようこそインドへ」とそれらが迫るようであった。デリー着は22時を超えていた。最初の目的地であるサーンチーまでは明朝6時の飛行機に乗らなければならず、空港近くの宿で仮眠を取る。早朝、空港の待合でサントイッチと果物を頬張るが、正直なところこれがマズイ。どうやらインド人は

カレー以外の料理は苦手なようである。味の方向性が定まらないと言った表現がシックリとくる。果物もそれほど甘くない。まるで野菜だ。日本の果物が、いかに品種改良と農家さんの愛情によつて甘くなつていことかと、改めて気づかされる。このような長時間のフライトと恵まれない食環境ながら、ようやくボーパールという町の空港にたどり着く。

ボーパールからサーンチーまでは車に揺られて1時間半程であつたろうか。車窓には実にインドらしい光景が映る。まず道路であるが、車、オート三輪、馬車、バイク、そして牛、これらが皆同じ車線を走っているのである。スピードはバラバラでそれぞれが自分のタイミングで追い抜きをかけた方向を変えたりと、交通ルールはあるのだろうか。とにかくよく事故を起こさないものだと感心する。腕の良いドライバーさんに当たつたことに感謝したらよいのだろうか。また道端には屋台や倉庫のような喫茶店があちらこちらにある。インド名物、チャイなどを提供している店だ。インド人ガイドのジャイさんの誘いにより、早速、チャイを頂く。このコップで飲んでもお腹は大丈夫だろうかと不安に思いながらも口にしたチャイはとてもお腹に優しい味がした。ミ

姜などのスパイスが利いている。店によつて異なるが1杯10ルピー（15円）程から。そしてインド人はやたらこのチャイを飲む。ガイドのジャイさんにいたつては、朝にチャイを飲まなければ仕事ができないとか。たしかに甘くて頭が動きだしそうな気もするが、そう言われると、朝からチャイ屋さんは出勤前と思われる人たちが

混んでいる。そこでくつろいだり、議論してから仕事に向かうようである。日本人からすると、早く仕事に行けよと言いたくなるかもしれないが、インド人にとっては欠かすことのできない一時なのであろう。

サーンチーは田舎である。インドのよき田舎の風景が残つてよいと思われ。小麦畑や綿花畑が広がり、交差点を中心に小さな商店が集まつている。道路は舗装されてはいるものの車が通るたびに砂埃が巻き上がる。何よりも人々の表情が穏やかで、平



後ろの丘の左端に仏塔が見える

和な雰囲気漂わせている。カメラを向けるとにややかな表情やポーズを取つてくれる若者達が印象的だ。ふと目線を丘の上にやると、そこには目指すべきサーンチーの仏塔（ストゥーパ）が町を見守るように存在していた。（つづく）

■五ヶ寺連研をのぞいてみませんか。

鴨島町・石井町の浄土真宗本願寺派の寺院五ヶ寺が連続して講座を開いています。仏事作法や仏教の話を気軽に聞いてみませんか。副住職も講師の一人として共に学んでいます。

- 興味ある方はどうぞ気軽に副住職まで連絡下さい。
- 3月10日、18時半、正信偈の解説（鴨島 徳住寺）
 - 5月12日、19時半、正信偈と作法（石井 西方寺）
 - 6月7日、18時半、法話（石井 光明寺）
 - 9月8日、19時半、仏教讃歌（鴨島 西円寺）
 - 1月12日、18時半、和讃について（鴨島 徳住寺）
 - 3月9日、18時半、まとめ（石井 西方寺）

■副住職担当

三木文化センター 徳島教室のご案内

各講座、受講生募集中

6回6ヶ月で13,478円

問い合わせは、

徳島駅前の中三木文化センター

（電話 089-911-6881）



●親鸞聖人と「歎異抄」 月1回 月曜 午後1時半、4月9日、5月14日、6月11日、7月9日、8月20日、9月10日

「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」で知られる『歎異抄』を読みながら親鸞聖人の生涯とその教えを味わいます。

●仏教講座「御文章」を読む 月1回 金曜 午前10時、4月13日、5月11日、6月8日、7月13日、8月3日、9月14日

「朝には紅顔ありて夕には白骨となる…」本願寺八代蓮如上人が残した『御文章』を読みながら、仏教基礎知識とそこに書かれた仏さまの心に触れてみませんか。

平成30年 年忌表

1周忌	平成29年
3回忌	平成28年
7回忌	平成24年
13回忌	平成18年
17回忌	平成14年
25回忌	平成 6年
33回忌	昭和61年
50回忌	昭和44年
61回忌	昭和33年
100回忌	大正 8年
150回忌	明治 2年
200回忌	文政 2年
250回忌	明和 6年
300回忌	享保 4年

過去帳・お位牌をお調べください

平成30(2018)年

ご本山&大谷本廟参拝団 募集

今年のご本山(西本願寺)・大谷本廟(納骨所)参拝団は下の通り実施いたします。
年に一度の団体参拝ですので、このご縁に参拝なされますようご案内申し上げます。

■ 一泊二日 (6月17日(日)~6月18日(月)費用3万5千円)

大保スカイトラベル5:30⇒市場⇒八幡⇒土成⇒各地⇒徳島⇒淡路⇒**大谷本廟**10:00着(納骨、法要)
⇒**西本願寺**(昼食、参拝、おかみそり、書院拝観)⇒**有馬温泉**(観光・宿泊)⇒**天橋立**⇒淡路
(夕食)⇒帰路⇒大保20:00

■ 日帰り (6月17日(日)費用1万5千円)

大保スカイトラベル5:30⇒(1泊と同じく各地)⇒**大谷本廟**10:00着(納骨、法要)⇒**西本願寺**(昼食、
参拝、おかみそり、書院拝観)⇒**將軍塚青蓮院青龍殿**⇒淡路(夕食)⇒帰路⇒大保21:30

※ 本山で帰敬式(ききょうしき)を受式希望の方は申し出下さい。(冥加金1万円)。

帰敬式とは、おかみそりを頂き、浄土真宗門徒として自覚をあらたにし、法名を拝受する儀式です。

※ 大谷本廟に納骨(分骨)を希望の方は申し出下さい。

※ 行程は天候や時間等により変更になることもあります。また観光等の希望があれば申し出下さい。

※ お部屋などの希望がある場合は申し出下さい。

申込:尊光寺まで(0883-36-3026)



天橋立



有馬温泉街



大谷本廟参拝・法要



將軍塚 青蓮院青龍殿

副住職担当 仏教講座のご案内

ごぶんしょう
仏教講座「御文章」を読む

「朝には紅顔ありて夕には白骨となれる身なり。」

初めての方にも分かりやすく親しみやすく、蓮如上人の味わい深いお手紙「御文章」を読みながら、仏教の思想・念仏の教えに触れてみましょう。

講師：尊光寺副住職 赤松 信映

毎月1回金曜（4/13、5/11、6/8、7/13、8/3、9/14、…）
10:00～11:30（6回で13,478円）途中からの受講も可



たんにしょう
親鸞聖人と「歎異抄」

「善人なほもて往生をとぐ。いはんや悪人をや。」

『歎異抄』には浄土真宗の宗祖親鸞聖人の言葉が記録されています。人生の真実を求め、自らの煩惱に向き合われた親鸞聖人の言葉は、今もなお多くの人々の胸をうち続けています。本講座では、親鸞聖人の生涯、仏教の基本的な思想から丁寧に学び、『歎異抄』におさめられた言葉の意味を探って参ります。

講師：尊光寺副住職 赤松 信映

毎月1回月曜（4/9、5/14、6/11、7/9、8/20、9/10、……）
13:30～15:00（6回で13,478円）途中からの受講も可



詳しくは【NHK文化センター徳島教室】まで
お問い合わせ・申し込み下さい。

NHK文化センター徳島教室

TEL **088-611-6881**

HP www.nhk-cul.co.jp
NHKカルチャー徳島 検索



70歳以上・中学生以下は入会金無料





2018 (平成30) 年
尊光寺 行事案内



3月21日	午後 1時	ひがん ええいたいぎょう 春の彼岸会永代 経 法要
3月22日	午後 1時	ひがん ええいたいぎょう 春の彼岸会永代 経 法要 (仏教婦人会総会)
5月 1日	午前10時 続いて午後	しゅう そ しんらんしやうにんごうたん え 宗 祖親鸞 聖 人降誕会法要 もんしんと そうかい 門信徒総会
6月17日~18日		ご本山参拝旅行
8月15日	午後6時頃	うらぼんえ 盂蘭盆会法要
8月30日	午前10時	仏教婦人連盟大会 (アスティ徳島)
9月23日	午後 1時	ひがん ええいたいぎょう 秋の彼岸会永代 経 法要
9月24日	午後 1時	ひがん ええいたいぎょう 秋の彼岸会永代 経 法要 (仏教婦人会老人ホームお接待)
12月22日	午後 1時 午後 6時	ほうおんこう 報恩講法要 ほうおんこうおおたい や ごでんしやう 報恩講大速夜・御伝 鈔 拝読
12月23日	午前10時 午後 1時	そうえいたいぎょう 総永代 経 法要 ほうおんこうごまんざ ごでんしやう 報恩講御満座・御伝 鈔 拝読
12月31日	午後11時40分	じよや え 除夜会 (除夜の鐘)
1月 1日	午前 0時	しゅしやう え 修 正 会
毎月15日	午後 夕刻	しゅうそがつきたいや 宗 祖月忌速夜法要
1月 9日~16日		ご本山御正忌報恩講法要

その他の行事は随時お知らせいたします。

皆様のご参拝をお待ちしております。

